

平成25年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第2回検討会での質問に対する回答について

第2回検討会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－1

フジノハナガイの調査結果→小松海岸の個体数は200？長原海岸多数と発表していましたが多数とは？数字で示してください。

◆回答－1

第2回環境部会にて、吉野川渡河部で生息を確認したフジノハナガイが、事業実施場所周辺に生息しているかどうかを確認する必要があるとのご意見を受け、平成26年1月10日～11日に小松海岸と長原海岸で生物調査を実施いたしました。調査の結果、小松海岸で229個体、長原海岸で86個体を確認しております。調査の結果の詳細につきましては、今後の検討会で報告いたします。

第2回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

モニタリング調査計画について来年度示しますとは、おそすぎます。設計しながら環境調査をすると云うのでは、設計に反映できないのではないのでしょうか？環境調査計画はもうすでに立たないと（計画性をもって）場あたりの対応では、成果がのぞめないのではないかと心配します。

◆回答－1

来年度実施する橋梁詳細設計では、決定された橋梁形式をもとに、主として各部材の詳細構造を設計するものです。それに対し、環境モニタリング調査は決定された橋梁に対する影響を工事前、工事中、工事後と監視していくものであり、その調査結果については、工事中の環境保全対策の改善、橋梁の環境評価に反映していきます。

○意見・要望－2

パブリックコメントを実施するのはありがたいですが、市民等がこれまで多数の意見や質問を提出してもおこたえは、常に「委員からのご指導、ご助言をいただいて進めます」という表現をされており、ちゃんと意見をきいて反映してくださるのか、とても心配です。観察している市民の意見をきいて反映する場をもうけていただきたいです。パブコメ期間が3週間とはあまりに短い
※（通常原則30日以上としているはずです）

◆回答－2

ご意見の募集で頂いた意見は、検討会へ報告し、環境保全の観点から検討会の場で議論いただいたのち、可能なものは環境保全対策へ反映していきます。また、ご意見の募集については検討会での結果にもとづき進めていきたいと考えております。

○意見・要望－3

資料で示されたようなイメージ写真をみると、水平線にふたをする海と川のちょうど境目にできる渡河橋について河口の広さ、日本一を誇る吉野川の美しい風景が破壊されるのは残念でなりません。示されたコンクリートの橋は美しくないと思います。2案対応の鋼けた橋は、ライフサイクルコストに劣るということですが、コンクリートも維持費は同様にかかると思います。

◆回答－3

第2案(130m程度の支間長)に限らず、コンクリート桁橋、鋼桁橋のいずれも維持経費は必要となりますが、吉野川渡河部の河口部といった特殊条件下であることを踏まえると、ライフサイクルコストの面で鋼桁橋はコンクリート桁橋より劣ると考えております。

○意見・要望－4

あまりにいそぎすぎ。当初の予定にある第3回環境部会と第2回橋りょう部会が抜かれたのは、不信感持ちます。委員の観点がそれぞれ異なるのでこれは絶対に実施していただきたい。

◆回答－4

第3回検討会は、環境保全対策(原案)に対するご意見が、環境面、構造面だけでは評価できない相互に関連する内容と考えられるため、両部会の委員を交えて議論する方が望ましいとの委員の意見を踏まえ、全委員に参加を依頼し実施させて頂くこととなりました。